日本農業新聞　令和６年８月13日掲載

農業技術プリズム

イチゴ栽培の資材全面被覆効果

商品果収量は10％増加 経費引いても所得向上

冬場に日射量の少ない本県のイチゴ栽培では、光環境の改善技術が必要です。これまでに「ゆめのか」の長崎県型高設栽培に光反射資材を用いると、収量が増加することが明らかになっていますが、より安価で太陽光を反射できる白黒ダブルマルチで高設スカート部を被覆し、さらに通路部を白色防草シートで被覆した場合の効果について調査しました。

その結果、10月中旬から白色資材で全面被覆すると、第1次腋花房の収穫開始日が早まるとともに、5月までの収穫果数と商品果収量は10％程度増加しました。

また、白色資材で全面を被覆した場合の収益を試算すると、全面被覆なしの場合と比べ、年間の資材費は10アール当たり5万5000円ほど多くかかりますが、販売額が83万5000円増加することから販売経費の増加分を差し引いても所得が向上することが分かりました。

（長崎県農林技術開発センター　農産園芸研究部門　野菜研究室　主任研究員　堀田修平）

イチゴ「ゆめのか」の白色資材全面被覆が収穫および収量に及ぼす影響

資材		第１次腋花房収穫開始日（月／日）	商品果	
スカート部	通路部		収穫果数（千個／アール）	収量（キロ／アール）
白黒ダブルマルチ	防草シート（白）	1／27	35.2	655
無	防草シート（黒）	1／31	31.9	586

注：データは2019～21年の3カ年の平均